

国際「理解」教育と「国際教育」

第15期中央教育審議会第一次答申
「21世紀を展望した我が国の教育の
在り方について(平成8年7月)」

- ①異文化を理解し、これを尊重・共生できる資質・能力
- ②自己の確立
- ③コミュニケーション能力

国際理解教育

他の国や異文化を理解する教育や単に体験したり交流活動を行うことにとどまっていた。

なぜ「理解」に終わってしまったのか。

- 国際社会に通用する人材を育成することの必要性に対する理解が不十分
- 国際理解に関するノウハウ等が不十分
- 教育活動を支える基盤(指導者、外部との連携)が不十分

初等中等教育における国際教育
推進検討会報告(素案)

- ①異文化や異なる文化を持つ人々を受容し、「つながる」ことのできる力
- ②自らの国の伝統・文化に根ざした自己の確立
- ③自ら発信し行動することのできる力

国際教育

国際社会において、地球的視野に立って、主体的に行動するために必要と考えられる態度・能力の基礎を育成するための教育

なぜ主体性・発信力を重視するのか。

- 21世紀の国際社会
 - 人・財・資本・情報の移動の激化、多様化、複雑化
 - グローバル化と相互依存関係の一層進展
- 21世紀の日本
 - 個人レベルの国際化の進展
 - 異なる文化や生活習慣を持つ外国の人々の増加
 - 学校の多文化化、多国籍化

理解だけでなく、
主体性や
発信力を
重視